

〈論 文〉

海外出版の日本語教科書にみる日本文化

“Japanese culture” in the Japanese-Language textbooks published abroad

出野 伶 (IDENO, Rei)

抄録

現在、海外において日本語学習者数は増加傾向にあり、学習者数の多い国では独自の日本語教科書を開発している。円滑なコミュニケーションが行えるようになるためにも、教科書には言語とともに日本文化を記載する必要がある、ほとんどの教科書が日本文化に関する事柄を記載している。しかし、記載されている日本文化の中には、学習者に誤解を与える可能性のあるものが存在するといわれている。また、海外の日本語教師数の約7割が日本語を母語としない教師であり、その中には日本に一度も来たことがない人も存在する。教科書内の日本文化が学習者に与える影響は大きいにも関わらず、日本文化を適切に教え、それをコミュニケーションに結び付けることができない現状にある。

これまで、日本文化に関連した日本語教育研究の多くは、授業内でどのように日本文化を教授するのかを考察するものなどであった。それらは文化を構造的にとらえるのではなく、文化の要素と要素を断片的、部分的に比較する傾向が強かった。

このような背景を踏まえて、海外で開発された日本語教科書（特に多くの学習者が使用している、オーストラリア、中国、韓国の教科書）の中に、どのような日本文化が、どのように記載されているのかを文化の要素別に確認した上で、それらの各要素の関連性、時代性、次元的構造を明らかにしたい。

Abstract

In recent years, the number of Japanese learners overseas are increasing. In the countries with a lot of learners, they develop and publish their own Japanese textbooks. They need to make a description of Japanese culture in order to have smooth communication with Japanese people. In effect, there are descriptions about Japanese culture in Japanese textbooks. However, it is said that there are some descriptions about Japanese culture with the possibility to give misunderstanding in Japanese textbooks. Also approximately 70 percent of Japanese-Language teachers are non-native speaker. In them, there are some teachers that have never been to Japan. Although Japanese cultures in the textbooks have a great influence on learners, in the present state of affairs, teachers cannot teach Japanese culture properly and learners cannot connect with communication.

As the conventional Japanese-Language education researches related to Japanese culture, the

consideration of the class method was the main. These researches did not grasp Japanese culture structurally. They grasp Japanese culture fragmentary through comparing cultural elements.

On the basis of these circumstances, I confirm the contents of the descriptions and the description method of Japanese culture in the Japanese textbooks that are developed and published abroad (especially textbooks in Australia, China, and Korea). Moreover, I am trying to explain each element's relativity, age and structure.

I、はじめに

国際交流基金が2009年に行った世界の日本語教育機関調査によると海外で日本語を学習している学習者数は約365万人、教育機関数は約1万4千機関と前回の調査（2006年の調査）より学習者数は22.5%、教育機関数は9.5%増加している。このような状況の中で日本語学習者数の多い国々は独自の日本語学習者向けの教科書を開発している。

言語を学習するということは、言葉とともにその言葉が使われている国の文化を学習することでもある。文化学習が欠けていると、コミュニケーションが適切に行われない可能性が高く、異なる言語を使用している人々の生活様式や価値観などを知ることで、円滑なコミュニケーションを行うことができるといわれている。そのため教科書にも、日本の食文化やあいさつの仕方などの日本文化を記述する必要がある、実際にほとんどの教科書が日本文化に関する事柄を記述している。しかし、海外で開発された教科書を見てみると、時代性が合わなかったり、説明不足のものがあつたりと学習者に誤解を与えかねないものが存在するといわれている。このように教科書内の日本文化のすべてが、実際のコミュニケーションに役立つものとは限らないのである。また、上記の調査によると海外の日本語教師数の約7割が日本語の非母語話者の教師であり、日本語の母語話者の教師が1人でもいる機関は全体の約4割に過ぎない。非母語話者の日本語教師の中には日本に一度も来たことがない人も存在する。教科書内の日本文化が学習者に与える影響は大きいにも関わらず、日本文化を適切に教え、それをコミュニケーションに結び付けることができない現状にある。

これまで、日本文化に関連した日本語教育研究の多くは、日本文化の授業の実態を明らかにするもの、授業内でどのように日本文化を教授するのかを考察するもの、また日本文化として取り上げられるべきものはどのようなものなのかについての考察などであった。これらは文化を構造的にとらえるのではなく、文化の要素と要素を断片的、部分的に比較する傾向が強かった。

このような背景を踏まえて、海外で開発された日本語教科書の中に、どのような日本文化がどのように記述されているのかを文化の要素別に確認した上で、それらの各要素の関連性、時代性、次元的構造を明らかにしたい。本研究では日本文化を部分的にとらえるのではなく、構造的にとらえることを試みるのである。

このような研究目的を達成するために、多くの学習者が使用している、オーストラリア、中国、韓国の教科書の内容を分析し、3カ国の教科書にみられる日本文化の記述の傾向を把握した上、中国

の教科書を中心に日本文化の記述上の問題点を批判的に検討する。分析の方法については本文中に詳しく述べる。

Ⅱ、言語教育における異文化学習の重要性

日本語教育の目的の一つとして、日本文化理解があげられる。これは、日本語のコミュニケーション能力の獲得にもつながるものである。言語を学習することは、その言語を用いて人とコミュニケーションを行うことが目的の一つとなる。しかし、コミュニケーションを行うためには、言葉のみを学習しているだけでは不十分である。実際に学習言語を使用している人々と会話をし始めると、「言葉そのものの理解だけでは解決できないことが多く出てくる」(李 2006: 56)。例えば、日本人との会話の中で「つまらないものですが…」と言いながら贈り物を手渡されたり、「お口に合うかどうかわかりませんが…」と言いながらごちそうを勧められた場合、言葉自体の意味が理解できても、日本人がどういった考え方からそのような言葉を使ったのかが理解できなければ、日本人の発した言葉の意味を正しく理解できず、誤解や衝突を生んでしまう(鈴木 2007: 12)。これは「日本語の表現や会話には、しばしば日本語を使う人々に広く共有された独自の考え方や習慣が反映される」(鈴木 2007: 12) ためである。そのような誤解や衝突を生まないためにも、言語学習において学習言語を使用する人々が持つ考え方や習慣を含めた文化を学習する必要がある。

その一方で、学習する文化に対しては、そのすべてを受け入れ、学習者もそのとおりに動かなくてはいけないというものではない。文化を学習するということは、学習者が「自分たちの言葉と異なる表現の仕組みをもつ日本人の存在を知り、早く日本語を学び、日本文化や日本人を理解しようという気持ちが膨らんでゆけば成功なのである。そうすれば日本語を通して、日本語の向こうにある日本人の心にふれあう端緒になるからである」(縫部 2001)。日本語を学習することで、日本文化を理解し、自国の文化を顧みるきっかけを発見することが期待される。

Ⅲ、分析の手順

1、分析基準の設定

文化は要素・次元・時代性から構造的に把握できるということが広く知られている。我々が日常的に使用する文化という言葉はあいまいで、文化を定義することは非常に困難なことである。それは、文化には数多くの要素が存在しそれが複雑に絡み合っているからである。そこで、教材を分析するために、①教科書の中に記述されている日本文化を要素別に分類、②文化を時代（現代と伝統）別に分類、③文化を次元（表層・深層）別に分類し、④3つの基準で分析した結果を、総合的に検討する。

基準①：文化要素

文化の要素に関してはさまざまな提案があるが、ここではエドワード・T・ホールの示している10個の要素を採用する。ホール以外の文化人類学者も文化要素を示しているが、ホールの10個の要素はそれぞれの意味が明白であり、具体性をもって示されているため、教科書を分類するのに適切だと判断したためである。10個の要素は表1（横軸）で示している。

ホールは文化要素を10個の項目に体系化した、それらがばらばらに存在しているのではなく、すべての文化要素は構造的に絡み合っていると把握している。ホールのこのような考え方に基づいて、まず教科書内の日本文化を各要素別に分類し整理する。各文化要素は構造的に絡み合っているので、複数の要素に分類しているものもある。

基準②：文化の時代性

文化は、伝統的な文化と現代的な文化に分けることができるといわれている（李 2006：60）。日本文化においても、年中行事や歌舞伎、能といった伝統的な文化と、現代の日本人の日常生活や行動様式に関する現代的な文化に分けられる（李 2006：60）。伝統的な文化を学ぶことは、日本文化の本質を学ぶ手がかりになるという点で重要なことである。しかし、伝統的な文化は現在の日本人の生活とかけ離れた面が多く、伝統的な文化のみの学習では異文化コミュニケーションを可能にすることはできない。

異文化コミュニケーションを可能にするためには、現代の日本人の日常生活や行動様式を理解することが不可欠である。それは、現代の私たちの生活が歌舞伎や能、年中行事といった伝統的な文化よりも、学校生活や家庭での食事、娯楽といった現代的な文化を中心に成り立っているためである。実際に日本人との会話で話題に上ることといえば、現代の日本の社会に関することやファッション、メディアに関することなどで、歌舞伎や能といった伝統的な文化を話題にすることは少ない。

このように、教科書内の日本文化の学習内容には、文化の本質に関する学習（伝統的な文化の学習）と異文化コミュニケーションを可能にする文化学習（現代的な文化の学習）の双方が必要であり、教科書内の日本文化を時代性の観点からも分類する必要があると考えた。

基準③：文化の次元

文化には、可視的なものと不可視的なものの2つの次元が存在する。ここではこの2つを表層文化と深層文化ということばで表現するが、この2つの次元はどの文化にも見られる。表層的な文化だけでは、文化の本質的な意味を理解できないことが多い。そのため、表層文化だけでなく、その奥にある深層文化（例えば、日本人の考え方や価値観）も学習しなければならない。このような理由から教科書内の日本文化を表層文化、深層文化に分類する必要がある。

これら理由から本研究の分析の基準として、文化要素と次元、時代性を設定した。

文化要素は次元と時代性を含んでおり、次元の中に時代性が含まれている。そのため、この3項

目を立体的に分類・整理する必要がある、その観点から分類の枠組みを設定した。表1が分類の枠組みである。

表1：教科書内日本文化の分類の枠組み

要素 次元		相互作用	連携	生計	性	空間	時間	学習	遊び	防衛	開発
表層	現代的										
	伝統的										
深層	現代的										
	伝統的										

2、分析方法

本研究では、表1の分析基準を用いて、教科書内の日本文化を分類した。できるだけ主観的な分析にならないよう、研究者本人以外に日本語教育を学んでいる日本人2人に分類の協力を求めた。手順としては、①上で示した分析の基準について、協力者にオリエンテーションを行う。②協力者は分析対象となる教科書を見、日本文化と思われるものを抜き出し、分析基準の表に分類する。③研究者と協力者3人のうち2人以上が認めたものを日本文化とし、分類表を完成される。なお、上でも述べたとおり、文化要素は複雑に絡み合っている存在しているので、1つの要素だけではなく、複数の要素に分類した日本文化もある。

完成した分類表（完成した分類表中、中国のものを附録として添付する）を基に、研究者は各教科書が取り扱っている日本文化を分析していく。

3、分析の対象

分析対象として取り扱った教科書は以下の5冊である。その中で、『Obentool1』・『Obentool3』、『義務教育課程標準実験教科書 日語 上冊』・『義務教育課程標準実験教科書 日語 下冊』はそれぞれ同じシリーズのものであり、編集方針などが同じであるため、1組とし分析を行った。

『Obentool』はオーストラリアで開発された教科書であるが、イギリスやアメリカなど欧米圏で広く使用されている教科書である。10年以上前に開発された教科書にも関わらず、オーストラリア国内でもいまだに人気のある、シリーズものの総合教材である（国際交流基金 HP）。『義務教育課程標準実験教科書 日語』は「新シラバス（課程標準）に準拠した新教科書（国際交流基金 HP）」であるため、中国の中学校で広く使用されている。この教科書は各学年上下2冊で構成されており、その中で『九年級』が一番上の学年が使用するものである。『生活日本語 こんにちは』は国定教科書であり、韓国の中学生向けの教科書はこの1冊のみである。

このような理由から、この5冊の教科書を選び、分析対象とした。

オーストラリア：『Obentoo1』（1997） 『Obentoo3』（1997）		
出版社		NELSON 出版
編集者	『Obentoo1』	Peter Williams Sue Xouris Kyoko Kusumoto
	『Obentoo3』	Anna Fisher Ayako Fukumoto Jacqueline Brown
開発協力者		国際交流基金シドニー日本文化センター

中国：『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級 上冊』（2005） 『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級 下冊』（2005）		
出版社		人民教育出版社
編集者	上冊	中国編集委員会 主編：唐 磊 主要編者：朱京伟 何 琳 張国强 赵华敏 续三義 彭広陆 日本編集委員会 顧問：水谷修 主任編集委員：加納陸人 編集委員：大船ちさと 鈴木強固 松本朝子 補助執筆：青木惣一
	下冊	中国編集委員会 主編：唐 磊 主要編者：朱京伟 何 琳 張国强 赵华敏 续三義 彭広陆 李家祥 刘粉丽 張 敏 日本編集委員会 顧問：水谷修 主任編集委員：加納陸人 編集委員：大船ちさと 鈴木強固 松本朝子 補助執筆：青木惣一
開発協力者		国際文化フォーラム 日本国際交流基金

韓国：生活日本語 こんにちは（2001【初版】2009【第9版】）	
出版社	（株）天才教育
編集者	李 トクボン（同徳女子大学） 金 テホ（ハンソウ高等学校） 森山 シン（前・世宗大学）
開発協力者	記述なし

Ⅳ、海外出版の教科書の日本文化学習内容の傾向

分析対象とした教科書の日本文化学習の内容を見てみると、10個の要素すべてに分類できたものの要素間のバランスが取れておらず、構造的に捉えられていなかったり、時代的に現代生活とかけ離れた内容が多くみられた。

1、文化（＝人・生活）のない日本文化学習

5冊の教科書はどれも写真が多用されていた。しかし、使用されている写真を見てみると、日本人の生活と関係のある文化（例えば食文化や住宅文化）であるにも関わらず、日本人の生活様式が読み取れない写真が存在した。特に、オーストラリアの教科書である『Obentoo』と中国の教科書である『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』にその傾向が見られた。

例えば、『Obentoo1』で使用されている写真を見てみる。『Obentoo1』では写真や絵にその名前が記述されているだけで、詳しい説明はつけられていなかった。日本の家を紹介しているページでは、写真・絵とともに「居間」「床の間」のような名前が記述されているだけであり、文化要素として「空間」の要素しか読み取ることができなかった。家には「空間」の要素だけでなく、家族の団欒の場としての「相互作用」の要素であったり、食事をする場としての「生計」の要素であったり、テレビを見たりゲームをするなどの娯楽の場としての「遊び」の要素もある。しかし、使用されている写真にはほとんど人が写っておらず、人が生活をしている場であるということが伝わってこない。

中国の教科書である『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』ではコラムという項目で日本文化を紹介していた。しかし、その内容には『Obentoo1』と同じく、日本人の生活が読み取れない記述が多かった。特に下冊ではその傾向が顕著である。例えば、日本の交通に関する項目において、JRが日本全国に路線を展開していること、新幹線が運行を開始した年や時速の変化に関することが記述されており、「空間」と「時間」の要素を読み取ることができる。しかし、それが人々の生活にどのように結びついているのかに関する記述はない。交通機関は、旅行の際に多くの人が鉄道を利用するといった「遊び」の要素、通学に利用するといった「学習」の要素、日本の満員電車の様子などの「空間」の要素、車内アナウンスなどの「相互作用」の要素など、さまざまな要素を持っている。これらの要素は日本人の生活と深く結びついており、交通機関と日本人の生活との関係を示している。しかし、この教科書の記述からは、日本人の生活と交通機関との関係を読み取ることができない。

2、断片的表層文化のみの内容

上でも述べたが、5冊の教科書はどれも多くの写真を使用していた。その中には写真とともに、日本文化に関する説明が付け加えてあるものも存在した。しかし、その内容は一部の文化要素に偏っていたり、表層的な記述のみで深層文化まで読み取ることができない写真や記述であったりした。

『Obentoo3』は『Obentoo1』に比べて、学習者の母語で日本文化についての説明を行っていたが、

その中で使用されている写真や絵、説明の仕方は構造的でなく、部分的なものが多かった。例えば、日本の観光地の一つとして清水寺や龍安寺、金閣寺が取り上げられていた。そこから読み取れる要素は観光地としての「遊び」の要素のみであり、宗教施設としての「防衛」の要素は読み取れない。日本の宗教を紹介する Unit においても、使用されている写真は観光客でにぎわう寺や神社の写真であり、宗教的な要素は読み取れない。日本には観光地として有名な寺や神社が多く存在するが、すべての人が観光目的で寺や神社に訪れるわけではなく、信仰のよりどころとしている人も多くいる。しかし、この教科書の記述や使用している写真からは日本人の信仰は読み取れない。

中国の教科書である『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』では、限られたページで日本文化と中国の文化を比較し、記述している。日本の文化だけでなく、中国の文化も同時に取り扱っているため、その内容は自然と表層的なものになっている。例えば、日本の都道府県を紹介するページでは、都道府県の数や都道府県の下に市区町村が存在するといった簡単な説明と、47 都道府県の名前が記述してあるのみだった。都道府県の位置関係や行政の仕組み、各都道府県の特徴などは一切記述していない。このような記述では「空間」の要素や「連携」の要素ですら読み取ることができない。

韓国の教科書である『生活日本語こんにちは』でも写真や絵が多く使用されていた。年中行事や挨拶の表現などに関しては学習者の母語で説明も付け加えられていたが、その一方で、写真のみの記述で、それが何の写真なのか、どういう意味があるのかなどの説明が一切ないものも多くあった。例えば、こどもの日を説明しているページに菖蒲湯に入る男の子の写真が記述されていた。掲載ページと写真から読み取れることは、5月の行事という「時間」の要素と、日本の風呂場という「空間」の要素のみである。掲載ページには「菖蒲湯」という言葉はもちろん、邪気から身を守るという「防衛」の要素の記述もない。また、こどもの日に食べる柏餅についても、写真の掲載のみでその写真が柏餅の写真であること、餅を柏の葉でくるんで作られるという「開発」の要素、一家繁栄を祈るために柏餅を食べるという「防衛」の要素は書かれていない。写真から分かることは、食べ物という「生計」の要素のみである。

3、時系列的な連続的文化学習の困難な内容

中国の教科書である『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』は取り扱っている文化が年中行事や行政区画、気候など、時代性の面であまり変化の見られない文化だった。韓国の教科書である『生活日本語こんにちは』は学習者自信に調べさせる課題を提示しているため、時代性にかかわる記述まではしていない。そのため、この2つの教科書では時代性に問題があると感じた記述はほとんどなかった。しかし、『Obentoo』で取り上げられている日本文化は時系列的な連続的文化学習が困難だと感じる記述が存在した。

『Obentoo1』で取り上げられている家は、和室や床の間などが存在する、日本の伝統的な家と考えられるものだった。しかし、現代の日本人が生活している家を考えると、和室や床の間がある家で生活している人や、畳の部屋がある家で生活している人は少なくなっている。その一方で、

アパートやマンションで生活している人が多くなっているのが現実である。このことから考えても、和室や床の間がある家を取り上げるだけでは、現代の日本の家を紹介する上で不十分であるといえる。『Obentoo3』においても、その中で取り上げられている日本のスポーツは相撲のみである。確かに、相撲は日本の国技であり、多くの人が観戦する娯楽性の高いスポーツである。しかし、現代の日本では相撲以上に野球やサッカーといったスポーツの人気が高い。特に野球に関しては、毎年夏に高校野球が行われ、ニュースなどで大きく取り上げられる。こうしたことから、日本のスポーツとして相撲だけをとりあげるのではなく、野球やサッカーなど、現代の日本人の生活の中で、よく目にするものも取り上げる必要がある。

4、偏った日本文化内容

『Obentoo』シリーズや『生活日本語こんにちは』は日本の年中行事から漫画やアニメといったメディアに関する文化まで幅広く取り扱っていた。しかし、中国の教科書である『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』で取り扱われている日本文化は偏ったものであった。

『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』で取り上げられている日本文化を見てみると、上冊では伝統的な日本文化に偏りがみられ、下冊では現代的な文化に偏りが見られた。一見、上下冊の両方を学習することで、日本の伝統的な文化と現代的な文化の双方を学習することができるように思われる。しかし、伝統的な文化として取り上げられている日本文化は年中行事が中心であり、神道や仏教といった日本の宗教、相撲などの伝統的なスポーツに関する記述は見られなかった。現代的な文化として取り上げられているものも、日本の交通や行政区画といったもので、日本の食文化や住宅文化、マンガやアニメ、映画といった日本のメディアに関する記述は見られなかった。このように、伝統的な文化、現代的な文化の中にも偏りが見られる。そのため、上下冊の両方を学習しても、ごく一部の日本文化しか学習することができない。ごく一部の日本文化からでは日本の文化を断片的にしか理解することができず、日本文化に対して誤解を与えてしまう可能性があると考えられる。

以上3カ国の教科書の日本文化学習内容の概観を述べた。すべての教科書に共通して言えることは、要素間、要素と時代性・次元の間で構造的な捉え方ができていたものは少なく、ほとんどの文化が部分的な記述に留まっているということである。写真や絵が多用されていたが、文化の構造性を読み取れるものは少ない。写真を使用する際も文化の構造性を読み取れるように、取り扱う写真とその掲載方法を考え直す必要があると考える。

V、日本文化記述の「傾向」の背景に見る問題点

—中国の『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』を中心に—

IVでは分析対象とした教科書の日本文化学習内容の傾向を述べてきた。ここからは傾向の背景に

見られる問題点を考察したい。これからの日本語教育における教科書開発や教科書の改善のためには、傾向の背景を見る必要がある。また、上で述べた教科書の傾向からコミュニケーションや文化学習を通じて学習者の発達を促すといった日本語教育の本質的な理論を越えた問題点も見られる。このような理由から、傾向の背景に見られる問題点の一端を取り上げ考察する。

問題点の考察に関しては中国の教科書である『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』を中心に行う。『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』内の日本文化の学習内容とその記述方法は、他の2カ国の教科書に比べて偏りがあった。中国の教科書である『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』の問題点を考察したい。

1、伝統的な日本文化に偏った記述－文化的優越主義

『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』で取り上げられている日本文化は、時代性から見て伝統的な文化に偏っていた。取り上げられている日本文化が年中行事を中心としていたからである。年中行事は中国から伝わったものが多く、中国の年中行事と日本の年中行事は類似する点が多い。『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』で取り上げられている日本の年中行事は、七夕やお盆などであり、「中国が起源である」、「中国にも古くから同じような文化があった」というような一文が必ず付け加えられていた。また、下冊で取り上げられている嵐山の記述の中でも、周恩来が日本留学中に嵐山に滞在していたという歴史的な面に触れ、嵐山にある周恩来の詩を紹介している。このように、紹介されている日本文化には必ず中国に関する事柄が付随されていた。これはコラムで紹介されていた日本文化すべてにいえることであり、日本と中国を比較する形で記述されていた。その中でも年中行事の紹介は、中国を起源としていることが強調されており、これらの記述から、中国の文化優越主義がうかがえる。このような記述のされ方では日本文化に対して誤解を与える可能性があり、中国と関係のある日本文化しか学習することができない。日本には中国から伝わったものとは別に、マンガやアニメのように独自の発展を遂げたものも存在する。そういった文化も取り扱うことで、年中行事といった伝統的な文化からは見えてこない日本文化を伝えることができると考える。

2、日本人の日常生活に関する文化の不足－異文化コミュニケーションの視点の軽視

中国の『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』の中から各要素に分類した日本文化は、非日常的なものが多く、日本人の日常的なコミュニケーションや生活様式に関わるものは少なかった。これは「相互作用」に分類した日本文化が少なかったことからわかる。「相互作用」は人と人のやり取りに関する要素である。しかし、中国の教科書から読み取ることでできた「相互作用」の要素は、「いただきます」や「ごちそうさま」、「失礼します」といったあいさつの一部のみだった。その記述方法も、「() の時、「いただきます」と言います」のような練習問題の一部として取り扱われていたり、「いただきます」や「ごちそうさま」の持つ意味を説明するだけで、実際に使っている場面や会話の記述はなかった。「生計」に分類できたものも、盆踊りの会場で売り出されている焼きそ

ばやたこ焼き、正月に食べるおせち料理など特別な日の食べ物ばかりで、日常的に食べられる日本の食文化の記述は少なかった。下冊の中で日本の食文化の1つである味噌汁を抜き出すことができたが、その記述方法は日本の食文化として紹介するのではなく、問題文の一部として取り扱うのみだった。

人の生活の大半は学校へ行ったり、会社へ行ったり、買い物をしたりといった日常的なものである。年中行事などの伝統的な行事を取り扱うことにも意味があるが、それだけでは日本の実際の生活は見てこない。下冊で取り扱われている日本の行政区画や人口についても、知識として知っておくべきことではあるが、そこからは日本人の生活の様子はうかがえない。日本人とコミュニケーションを行うことを想定するのであれば、日本の普段の食文化やファッション、メディアといった日常生活が分かる文化も取り上げる必要があると考える。そうすることで、現代の日本人の習慣や考え方も知ることができ、実際のコミュニケーションにも役立つものになると考える。

3、深層文化の欠落ーインダクトリネーションの可能性

中国の教科書で取り上げられている日本文化は、日本の伝統文化や日本の社会に関するものが中心であった。その記述方法は日本の文化と中国の文化を比較する書き方だった。自国の文化と比較を行う中で日本文化を認識することは、日本文化の特徴が明白になるという点で良い方法だと考える。しかし、中国の教科書はその記述方法に問題がある。中国の『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級』内のコラムでは、教科書の編集者が日本の文化と中国の文化を比較し、説明文を記述している。限られたページの中で、両国の文化の比較を行っているため、記述してある日本文化は表層的な部分にとどまっている。例えば、日本の年中行事を中国の年中行事と比較して掲載している項目で、ひな祭りを紹介しているが、説明として「人形を飾り、甘酒を飲み、女の子の健康を祈る」と記述があるだけで、写真の掲載もない。そのため、どのような人形を飾るのか、甘酒とはどのような飲み物なのか、ひな祭りを祝う女の子やその家族の様子はどのようなものなのかは理解することができない。

それとともに、編集者が両国の文化をすでに比較した状態で記述している。学習者は自分自身で自国の文化と日本文化を比較し、考えることが難しく、教科書に記述してある内容をそのまま受け入れることになってしまう。このような記述方法は、特定の信念や考えを受け入れることを強制し、他を考えることを認めないインダクトリネーションを生む危険性を含んでいる。

表層文化の記述は学習者の興味・関心を引く役割があると考えられる。しかし、それだけで終わってしまったのでは、学習者の興味・関心を継続させることや、深めることはできない。学習者の気づきを促しながら、深層的な文化に触れることができるように、学習者自身に本やインターネットを使って調べさせるといった課題が必要だと考える。また、すでに両国の文化を比較した状態で記述するのではなく、学習者自身に比較させ、両国の共通点や相違点を発見させる課題づくりをすることで、インダクトリネーションの可能性が回避できると考える。

VI、まとめ

初めに述べたように、海外の日本語教育現場では非母語話者の教師が全体の教師数の大半を占めている。そのため、「教師も学習者も日常生活のなかで日本と接することはほとんどない」(坪山・梁島 iii 2010)。つまり、教師や学習者が日本と接することができるのは日本語の授業の中であり、授業の主教材である教科書内の日本文化が一番身近なものになるのである。教師が日本文化に対してほとんど知識を持たなかった場合、教科書内の日本文化が持つ役割はとても大きなものになる。

それにも関わらず、本研究で取り扱った5冊の教科書はリアルな日本人の生活、日本文化の構造的な理解まで十分に期待できるとはいえないものであった。本研究の結果をみると全体的に、①日本人の生活様式を読み取ることのできない写真の使用、②一部の文化要素しか読み取ることのできない断片的で表層的な記述、③時系列的な連続的な文化学習が難しい記述、④普段の日常生活よりも年中行事のようなイベントや気候などの地誌的な内容の記述が目立つといった傾向があった。しかも、中国の教科書には以下のような問題点も見られた。例えば、日本文化は中国を起源とするといった文化優越主義、日本人の日常生活が読み取れず異文化コミュニケーションが難しい内容、学習者自身に考えさせることができないインダクトリネーションの可能性を含んだ記載方法などである。本研究の限界として、実際の授業では補足がされて学習者に伝えられているのか、または、まったく補足がされない状態で学習されているのかは明らかではない。しかし、本研究の結果から、教科書を開発するに当たり日本文化の構造的学習を重視する必要があることは明確である。そして、日本語教育の理論または異文化としての日本文化の学習を越えた視点や考え方の排除が求められる。

参考文献

- 青木直子・尾崎明人ほか『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社 2001 年
縫部義憲『日本語教育学入門・改定版』瀝々社 2001 年
池田悠子『やさしい日本語指導 1 社会／文化／地域』凡人社 2004
石田英一郎『日本文化論』筑摩書房 1969 年
石田英一郎『文化人類学ノート』新泉社 1967 年
エドワード・T・ホール著 國弘正雄ほか訳『沈黙の言葉』南雲堂 1966 年
川瀬生郎『日本語教育学序説』近代文芸社 2001 年
クライド・クラックホーン著 光延明洋訳『人間のための鏡』サイマル出版会 1971 年
鈴木伸子『日本語教育能力試験に合格するための異文化理解』(株)アルク 2007 年
須田紀子『異文化理解への道』青山社 2004 年
玉村文郎『日本語学を学ぶ人のために』世界思想社 1992 年
坪山由美子 梁島史恵『日本事情・日本文化を教える』ひつじ書房 2010 年
姫野昌子ほか『ここからはじめる日本語教育』株式会社マップス 1998 年
平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会 2000 年

細川英雄『日本語教育は何をめざすか 言語文化活動の理論と実践』明石書店 2002 年

細川英雄・小川貴士ほか『ことばと文化結ぶ日本語教育』凡人社 2002

堀井恵子『日本語教育への扉』凡人社 2005 年

吉岡英幸 編『徹底ガイド 日本語教材』凡人社 2008

来嶋洋美「『日本の生活と文化』をトピックにした中等教育向け読解教材の開発－英国中等教育向け

日本語リソース『読む力－CHIKARA for READING』の場合」

国際交流基金 日本語教育紀要 第 6 号：125 ～ 137, 2010

譚 建川「中国における日本事情教育の現状」

国際交流基金 日本言語文化研究会論集第 2 号 59 ～ 81

水内宏 李潤華「『日本事情』教育における新視点と教材開発

千葉大学教育学部研究紀要 第 54 巻：55 ～ 62, 2006

参考サイト

国際交流基金 HP 国際交流基金について 国際交流基金の概要 2010 年 11 月 3 日 access

<http://www.jpf.go.jp/j/about/outline/index.html>

参考資料

Peter Williams・Sue Xouris・Kyoko Kusumoto『Obentoo1』NELSON 出版社（オーストラリア）1997 年

Anna Fisher・Ayako Fukumoto・Jacqueline Brown『Obentoo3』NELSON 出版社（オーストラリア）2000 年

唐 磊・水谷修・加納陸人ほか『義務教育課程標準実験教科書 日語 九年級 上冊・下冊』人民教育出版社（中国）2005 年

李 トクボン・金 テホ・森山 シン『生活日本語 こんにちは』（株）天才教育（韓国）2009 年

次元	要素	相互作用	連携	生計	性	空間
表層	現代的	*食事を始めるときの挨拶としての「いただきます」 *入室・退室のときの挨拶としての「失礼します」 *人の家を訪ねたときの挨拶としての「ごめんください」 *季節のことや健康状態に関する話から始める手紙の書き方	*グループ行動が必要とされる研修旅行	*おにぎり *焼きそば *たこ焼き *夏祭りでの商業活動としての輪投げ *夏祭りでの商業活動としての金魚すくい *夏祭りでの商業活動としての亀すくい	*男性パートと女性パートに分かれて歌う合唱コンクール *男子の制服としての学ラン *女子の制服としてのセーラー服	*修学旅行先としての広島県 *七夕祭りの行われる仙台市
	伝統的		*人々が音楽に合わせて同じ踊りをする盆踊り	*綿あめ *お雑煮 *お節料理 *こどもの日に食べる柏餅 *こどもの日に食べる粽 *正月に食べる餅	*男の子の成功を祈るこいのぼり	*修学旅行先としての宮島 *富士山 *「湯」の文字で示される風呂屋(銭湯) *神社 *寺
深層	現代的		*各組に所属する人々が団結し力を合わせて勝負を行う体育祭			
	伝統的		*家族が集まる行事である正月 *家族が集まる行事であるお盆	*年越し蕎麦 *正月に食べる数の子 *正月に食べる黒豆 *正月に食べる昆布 *正月に食べる鯛	*ひな祭り *こどもの日 *祝う年齢と性別の区別がある七五三 *男女の恋の伝説を基にした行事である七夕	

次元	要素	時間	学習	遊び	防衛	開発
		現代	現代	現代	現代	現代
表層	現代	* 春に行われる入学式 * 学期の初めに行われる始業式 * 3月に行われる卒業式 * 6月に行われる体育祭 * 9月に行われる文化祭 * 10月に行われる研修旅行 * 冬に行われるスキー教室 * 食事を始めるときの挨拶としての「いただきます」 * 寝るときの挨拶としての「おやすみなさい」 * 1年を3つの期間にわけける3学期制の学校 * 冬に行われる百人一首大会 * 季節のことや健康状態に関する話からはじめる手紙の書き方	* 入学式 * 卒業式 * 研修旅行 * 合唱コンクール * 制服 * スキー教室 * 冬休み * 夏休み * 3学期制と2学期制のある日本の学校制度 * 授業で使用する日本地図 * 日本の音楽の教科書に記載のある日本の歌 (「風になりたい」・「見上げてごらん夜空の星を」)	* 旅行としての研修旅行 * 合唱コンクール * 旅行としてのスキー教室 * 観光地としての富士山 * 遊びとしての折り紙 * 七夕祭り * 冬休み * エンターテインメントとしての日本の歌 (「風になりたい」・「見上げてごらん夜空の星を」)	* 学生の所属と身分を守る制服	* 制服 * おにぎり * 焼きそば * たこ焼き * 綿あめ * 折り紙 * こたつ * 日本の歌 (「風になりたい」・「見上げてごらん夜空の星を」) * 体育祭
	伝統	* 俳句に使用する季語 * こともの日に飾るこいのぼり * 正月に飾るしめ縄 * 正月に飾る門松 * 正月に行う初詣 * 夏場に着る浴衣 * 年中行事としての節分 * 春に行う花見	* 国語の時間に取り扱われる百人一首 * 国語の時間に取り扱われる短歌 * 国語の時間に取り扱われる俳句 * 修学旅行先としての宮島 * 文化祭でクラスで取り組む和太鼓	* 観光地としての宮島 * おもちゃとしてのけん玉 * 金魚すくい * 亀すくい * 輪投げ * 七夕の楽しみの1つである短冊 * 趣味としての俳句 * こいのぼり * 百人一首	* 宗教的な場としての宮島 * 邪気を払う意味のある菖蒲湯 * 魔除けの意味のあるススキ * 1年の安泰を願う初詣 * 正月の神を迎えるためのしめ縄 * 正月の神を迎えるための門松	* 百人一首 * 俳句 * 短歌 * 季語 * 神社・寺 * 和太鼓 * お雑煮 * お節料理 * 餅 * けん玉

				* 節分 * 盆踊り * 宴会としての花見	* 宗教施設としての神社・寺 * 邪をはらい福を招く節分	* しめ縄 * 門松 * こいのぼり * 粽 * 柏餅
深層	現代	* 冬休み	* 体育祭 * 文化祭	* 体育祭の楽しみの1つとしての応援合戦 * 文化祭 * 娯楽アニメとしての鉄腕アトム	* 組対抗の攻防戦である体育祭	* 鉄腕アトム * すべて学生の手で作る * 記述のある文化祭
	伝統	* 年中行事としての正月 * 年中行事としてのお盆 * 年中行事としての七夕 * 年中行事としてのひな祭り * 年中行事としてのこの日 * 年中行事としての十五日 * 年中行事としての十五夜 * 年中行事として記載されている七五三 * 年中行事としての大みそか		* 正月 * お盆 * 七夕 * こどもの日 * 大みそか * 遊びとしてのなぞなぞ * 遊びとしてのじゃんけん	* 女の子の健康と幸福を祈るひな祭り * 先祖供養としてのお盆 * 男の子の健康と成功を祈るこどもの日 * 十五夜 * 七五三 * 無病息災と長寿の意味のある年越し蕎麦 * 正月に食べられる縁起物としての数の子（子孫繁栄） * 正月に食べられる縁起物としての黒豆（まめに働く） * 正月に食べられる縁起物としての昆布（よろこぶ） * 正月に食べられる縁起物としての鯛（めでた）	* 年越し蕎麦 * 正月に食べられる縁起物としての数の子（子孫繁栄） * 正月に食べられる縁起物としての黒豆（まめに働く） * 正月に食べられる縁起物としての昆布（よろこぶ） * 正月に食べられる縁起物としての鯛（めでた）

要素 次元	相互作用		連携	生計	性	空間
	現代的		*各学校のアイデンティティを示すための制服		*女子の学生服	*日本の活火山の名称と分布 *47都道府県の名称 *富士山のふもとにある富士五湖
表層	伝統的			*抹茶 *味噌汁 *干物		*嵐山にある大堰（おい）川 *渡月橋 *茶室を使用する茶道
深層	現代的	*情報伝達手段としての日本の手話	*人々の連携が大切になる防災訓練 *コミュニケーション手段としての日本の手話	*労働力不足につながる日本の人口の減少		*日本の国土 *日本の行政区画 *嵐山 *富士山
	伝統的	*食事を始める時の挨拶としての「いただきます」 *食事を終えた時の挨拶としての「ごちそうさま」		*食事の時の挨拶としての「いただきます」 *食事の時の挨拶としての「ごちそうさま」		

要素 次元	時間	学習	遊び	防衛	開発
表層	現代的 * 移動時間の变化の記載 がある新幹線	* 学生服 * 日本の音楽の教科書で 扱われている歌 (「また あえる日まで」)	* 観光地としての富士五湖 * 娯楽としての日本の4 コマ漫画 * 日本の歌 (「またあえる 日まで」)		* 新幹線 * 日本航空 (JAL) * 全日空 (ANA) * 学生服 * 日本の4 コマ漫画 * 日本の歌 (「またあえる 日まで」)
	伝統的	* クラブ活動としての茶道 * 日本の音楽の教科書で 取り扱われている童謡 (「早春賦」)	* 観光地としての大堰(お おい) 川 * 観光地としての渡月橋 * 趣味としての茶道 * 日本の歌 (「早春賦」)		* 茶道 * 渡月橋 * 味噌汁 * 干物 * 日本の歌 (「早春賦」)
深層	現代的	* 災害時の身の守り方を 学ぶ 防災訓練	* 観光地としての富士山 * 観光地としての嵐山	* 防災の日 * 災害からみを守るため の防災訓練	* JR * 都道府県市区町村 * 防災訓練 * 日本の手話
	伝統的	* 俳句に使用する季節に 関する言葉である季語 * 食事をする時の挨拶と しての「いただきます」 * 食事を終える時の挨拶と しての「ごちそうさま」	* 趣味としての俳句		* 俳句